

この度、以下の通り公益財団法人JKAから平成27年度競輪公益資金による補助金の交付を受け、「平成27年度障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業」を完了いたしました。

ここに事業完了のご報告を申し上げますとともに、公益財団法人JKAをはじめ、ご協力賜りました関係各位に謹んで感謝の意を表します。

- 1 事業名 平成27年度障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業
- 2 総事業費 56,955,721円
- 3 補助金額 19,742,000円
- 4 完了日 平成27年10月26日

実施内容

①第15回全国障害者スポーツ大会（和歌山県）

開催日：平成27年10月24日（土）～26日（月）

実施場所：和歌山県内（紀三井寺公園陸上競技場他）

開催競技：陸上競技、水泳、卓球（サウンドテーブルテニス含む）、フライングディスク、アーチェリー、ボウリング、バスケットボール、車椅子バスケットボール、ソフトボール、グランドソフトボール、フットベースボール、バレーボール、サッカー

オープン競技：車いすテニス、卓球バレー

②第15回全国障害者スポーツ大会予選会

1) 聴覚障害者バレーボール競技

全国を6地区に分け平成27年5月10日～6月28日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

	(男子)	(女子)		
北海道・東北	青森県	岩手県	6月28日	国体記念体育館（山形県）
関東	東京都	東京都	5月10日	障害者スポーツ文化センター横浜ホール
北信越・東海	愛知県	岐阜県	6月7日	四日市市中央緑地体育館（三重県）
近畿	兵庫県	兵庫県	6月7日	岩出市立市民総合体育館（和歌山県）
中国・四国	鳥取県	広島市	5月16日～17日	安芸区スポーツセンター（広島県）
九州	長崎県	沖縄県	5月9日	三菱重工総合体育館（長崎県）



2) 視覚障害者グランドソフトボール競技

全国を8地区に分け平成27年5月9日～6月8日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北 仙台市 6月7日～8日 仙台市立長町小学校（宮城県）

関東	東京都	6月7日～8日	群馬県
北信越	長野県	5月16日～17日	松岡総合運動公園（福井県）
東海	愛知県	5月23日～24日	一宮総合運動公園（愛知県）
近畿	大阪市	6月7日	紀の川市打田若もの広場（和歌山県）
中国	広島県	5月16日～17日	広島県立広島中央特別支援学校（広島県）
四国	香川県	5月9日～10日	淀江町スポーツ広場（鳥取県）
九州	鹿児島県	5月23日～24日	宮崎県生目の杜運動公園（宮崎県）



3) 車椅子バスケットボール競技

全国を6地区に分け平成27年5月30日～6月21日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	仙台市	6月20日～21日	あづま総合体育館（福島県）
関東	千葉市	6月6日～7日	さいたま市記念総合体育館（埼玉県）
北信越・東海	愛知県	6月6日～7日	美浜町総合体育館（福井県）
近畿	兵庫県	6月7日	和歌山ビッグウェーブ（和歌山県）
中国・四国	高知県	5月30日～31日	ソルトアリーナ防府（山口県）
九州	長崎県	5月30日～31日	佐賀市諸富町文化体育館ハートル（佐賀県）

4) 知的障害者バスケットボール競技

全国を6地区に分け平成27年4月18日～6月20日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

	(男子)	(女子)		
北海道・東北	秋田県	秋田県	6月20日	札幌市手稲区体育館（北海道）
関東	横浜市	東京都	4月18日～19日	ALSOKぐんまアリーナ（群馬県）
北信越・東海	長野県	愛知県	6月6日～7日	安濃町総合体育館（三重県）
近畿	大阪市	堺市	6月7日	田辺スポーツパーク体育館（和歌山県）

中国・四国	高知県	岡山県	6月20日～21日	広島県立びんご運動公園
九州	福岡市	沖縄県	4月26日	小倉北体育館（福岡県）

5) 知的障害者バレーボール競技

全国を6地区に分け平成27年4月19日～6月21日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

	(男子)	(女子)		
北海道・東北	宮城県	宮城県	6月21日	宮城野体育館（宮城県）
関東	東京都	東京都	4月19日	千葉ポートアリーナ（千葉県）
北信越・東海	岐阜県	新潟市	6月14日	黒崎地区総合体育館（新潟県）
近畿	兵庫県	兵庫県	6月7日	海南市総合体育館（和歌山県）
中国・四国	山口県	高知県	6月6日～7日	日米子サウ・アビリティーズ（鳥取県）
九州	北九州市	福岡県	5月24日	宮崎市総合体育館（宮崎県）

6) 知的障害者サッカー競技

全国を6地区に分け平成27年4月19日～6月21日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	札幌市	6月20日～21日	十六沼後援サッカー場（福島県）
関東	東京都	4月19日	綾瀬市スポーツ公園（神奈川県）
北信越・東海	岐阜県	5月17日	丸岡スポーツランド（福井県）
近畿	大阪府	6月7日	桃源郷運動公園陸上競技場（和歌山県）
中国・四国	島根県	5月23日～24日	島根県立浜山公園（島根県）
九州	沖縄県	4月19日	沖縄県総合運動公園陸上競技場（沖縄県）

7) 知的障害者ソフトボール競技

全国を6地区に分け平成27年4月26日～6月21日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	宮城県	6月21日	シェルコム仙台（宮城県）
関東	千葉県	4月26日	那珂湊運動公園（茨城県）
北信越・東海	岐阜県	6月7日	口論義運動公園（愛知県）
近畿	奈良県	6月7日	紀ノ川粉河運動場（和歌山県）
中国・四国	岡山県	5月30日～31日	高松市立東部運動公園（香川県）
九州	長崎県	5月9日	鷹ノ巣球場（福岡県）

8) 知的障害者フットベースボール競技

全国を6地区に分け平成27年4月19日～6月21日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	岩手県	6月21日	石鳥谷ふれあい運動公園（岩手県）
関東	東京都	4月19日	妻沼運動公園（埼玉県）
北信越・東海	静岡県	5月17日	しんせい運動広場（岐阜県）
近畿	神戸市	6月7日	紀ノ川粉河運動場（和歌山県）
中国・四国	山口県	6月13日～14日	ビバ・スポーツIAIJO（愛媛県）
九州	熊本県	5月30日	熊本県身体障がい者福祉センター（熊本県）

9) 精神障害者バレーボール競技

全国を6地区に分け平成27年4月25日～6月21日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	青森県	5月23日	秋田市立体育館（秋田県）
関東	横浜市	5月30日	秦野市総合体育館（神奈川県）
北信越・東海	名古屋市	6月20日～21日	山県市総合体育館（岐阜県）
近畿	大阪府	6月7日	田辺市体育センター（和歌山県）
中国・四国	山口県	6月6日～7日	鳥取県米子産業体育館（鳥取県）
九州	福岡県	4月25日	佐賀市総合体育館（佐賀県）

③国際盲人マラソン大会

実施日：平成27年4月19日（日）

実施場所：土浦市川口運動公園陸上競技場

参加者数：男子104名、女子41名、計145名



④国際大会の日本代表選手団ユニフォーム経費

IBSAワールドゲームスソウル2015日本選手団ユニフォーム経費

実施日：平成27年5月10日（日）～17日（日）

実施場所：韓国・ソウル

参加人数：選手82名、ガイド7名、スタッフ57名 計146名

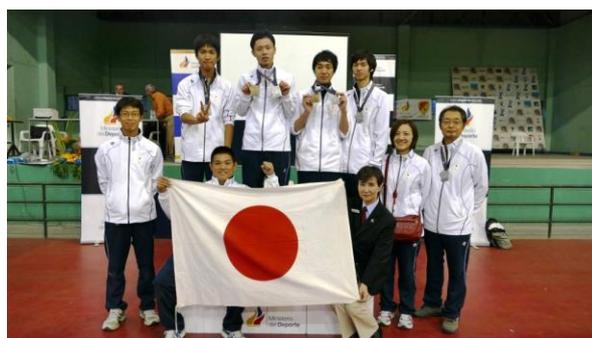


エクアドル2015Inasグローバルゲームズ日本代表選手団ユニフォーム経費

実施日：平成27年9月20日（日）～27日（日）

実施場所：エクアドル・グヤヤキル／グアランダ／クエンカ

参加人数：選手94名、スタッフ48名 計142名（帯同審判2名）



成 果

①第15回全国障害者スポーツ大会（和歌山県）

全国から約3,200名の選手、約2,200名の役員、総勢5,400名が参加し、競技会では、個人競技において大会新記録188、大会タイ記録1、大会記録47などの好記録が続出し、団体競技においても熱戦が繰り広げられ、各会場は、選手達の熱い戦いと、県内外から駆けつけた観客のみなさんの盛大な応援で一体となりました。

大会期間中の参加者は延べ8万人を超え、選手の皆さんが全力で競技に取り組み姿は、全国から集まった皆さんに大きな感動を与えた。そして、ボランティアをはじめとした多くの方々に大会に参加いただき、障がい者スポーツの意義やすばらしさを共有し、障がいに対する理解と交流の輪が広がった。

②第15回全国障害者スポーツ大会予選会

全国障害者スポーツ大会の出場にむけて、団体競技9競技12種目が、全国が6～8ブロックにわかれ、予選会を行った。全国障害者スポーツ大会の団体競技を公平に行うためには無くてはならない大会であり、今年度も公平に安全に全ての予選会が行われた。

③国際盲人マラソン大会

国内でも有数の参加者数を誇るマラソン大会である、かすみがうらマラソン大会と同時開催し、大きな事故もなく大会は無事に終了した。盲人マラソン大会としては国内唯一の国際パラリンピック委員会公認大会であり、国内外からレベルの高い選手が参加し、熱戦が繰り広げられた。

④国際大会の日本代表選手団ユニフォーム経費

今年度は、IBSAワールドゲームスソウル2015及び、エクアドル2015Inasグローバルゲームズの2大会での日本代表選手団ユニフォームを作成した。

IBSAワールドゲームスソウル2015は、視覚障がい者の世界大会で、日本選手団は金4個、銀12個、銅7個を獲得した。

エクアドル2015Inasグローバルゲームズは、知的障がい者の世界大会で、日本選手団は、金7個、銀17個、銅18個を獲得する、大活躍を見せた。

今後予想される効果

①第15回全国障害者スポーツ大会（和歌山県）

身体障がい、知的障がい、精神障がいの三障がい、全ての障がい者が、全国各地のより集まり、様々な競技で競い合う国内最大の障がい者スポーツの大会である本大会である。本大会の開催は、多方面にわたって地域における障がい者スポーツ振興を牽

引し、指導者の育成や各部道府県・指定都市において障がい者スポーツ協会設立などの基盤整備のための重要な役割となる。

②第15回全国障害者スポーツ大会予選会

本予選会の開催の目的は、全国障害者スポーツ大会へ出場するための、団体競技のブロック予選会を安全に、公平に行うことであるが、本大会の開催により、より地域での障がい者スポーツの普及・振興が進み、ブロックでの地域間の連携が深まる。

③国際盲人マラソン大会

国内でも有数の参加者数を誇る、かすみがうらマラソン大会と同時開催することにより、一般ランナーと、障がい者ランナーが同時に走ることが出来る。それにより、一般ランナーは自然に障がい者ランナーと触れ合うことができ、障がいの理解が進む。

④国際大会の日本代表選手団ユニフォーム経費

日本選手団として、日の丸、日本パラリンピック委員会のマークの入ったユニフォームを着ることにより、日本選手団としての誇りと自信をもち、競技に参加することが出来る。